

令和6年香美市議会定例会 6月定例会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和6年香美市議会定例会 6月定例会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方をご説明をさせていただきます。

まず最初に、5月臨時会議にて、否決された教育長人事についてです。

まずもって今回の事態になりましたことは、私の説明不足が原因であり、改めてお詫び申し上げます。5月31日に議員の皆様、マスコミにも公開した形で、教育委員さんからいただきました要望書につきまして、私の考え方をお伝えすべく、意見交換の場を設けさせていただきました。

残念ながら、教育長人事における私の政策的な考え方はご説明する時間がありませんでしたし、教育委員さんからも、もっと教育そのものについてお話ししたかった、とのご意見がありましたので、今月中に2回目の意見交換会を設けさせていただくべく、日程調整させていただきます。議員の皆様にも丁寧にご説明させて頂き、ご理解頂けるよう全力を尽くしてまいります。

それでは、私が掲げる「5つの基本政策と4つの横断的な政策に基づく香美市づくり」についてご説明いたします。

最初に、基本政策の1つ目、経済の活性化についてであります。

来春放送開始のNHK連続テレビ小説「あんぱん」放送に向けて、色々と準備を進めているところですが、この放送に合わせ、アンパンマンミュージアムなど香美市に来てくださる方がかなり増えることを想定しております。

私としましては、この香美市に来てくださる皆さんの満足度を高めると同時に、経済効果も生み出したいと考えております。

そこで先月 23 日から 1 泊で、香美市議会・朝ドラ「あんぱん」特別委員会の皆様のご視察に、私や職員も同行させて頂く形で、境港市にお伺いしました。当日は、伊達境港市長の大歓迎を受け、記念館の皆さん、市役所の皆さんに大変お世話になりました。具体的には、4 月 20 日にリニューアルされた水木しげる記念館や市役所にて、朝ドラ「ゲゲゲの女房」放送時の取り組みや、新たな記念館についてなど、詳しくご説明を頂きました。

中でも渋滞対策につきましては、シャトルバスの運行や、市役所職員の取り組みなど非常に参考になりました。

この学ばせて頂いた点も生かすべく、本議会では、不足する駐車場を補うため、7 月から今年度末までの 9 か月間の借り上げ料、363 万円余を計上させて頂いております。

またおもてなしとしまして、美良布商店街の看板整備に 16 万 3 千円余、キャラクターパネル舗装整備に 1024 万円余、JR 土佐山田駅前の香美市いんふぉめーしょんの改修費用として、新たに 1150 万円、香美市商工観光振興事業費補助金として、ガイドツアーのガイド養成費に 100 万円、パンフレット作成に 600 万円、宿泊施設整備に対して 500 万円を計上させて頂いております。

朝ドラ「あんぱん」を契機に、香美市の魅力を高め、放送終了後も香美市に来て頂き、経済の活性化にも繋げられるよう、取り組んでまいります。

次に、農業についてです。

昨今の肥料や燃料の高騰などにより、農家所得は減少している状況であり、何としても農家の経営を守りたいと取り組んでいるところです。本議会では、認定新規就農者など若き農家を支援する経営発展支援事業におきまして、当初予定していた 223 万 5 千円の予算が不足することとなり、本議会に 484 万 5 千円を追加計上させて頂きます。今後とも、若きチャレンジャーを積極的に呼び込み、香美市の農業を持続させるべく取り組んでまいります。

次に、地域電子マネーkamica についてです。

私としましては、香美市民に定着してきたカミカを、末永く使い続けて頂くためには、香美市としまして、継続的にキャンペーンを行っていく必要があると考えております。そこで今回は、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金及び県の高知県地域通貨普及促進事業費補助金を活用して、カミカ決済に対して 10%の期間限定ポイントを、1 人当たり 1 万ポイントの上限で支援させて頂きたいと思っております。

今後とも、香美市商工会と連携して、民間消費の地域外流出を防止し、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

次に基本政策2つ目の健康長寿の香美市づくりです。

先月14日に、香美市は、高知県ヘルスケアイノベーションプロジェクトのパートナー機関として登録させて頂きました。

この高知県ヘルスケアイノベーションプロジェクトは、高知県内でのデジタル技術を活用したヘルステックビジネスの創出をめざしたもので、要するにデジタル技術を活用した健康や介護の分野で新たな産業を起こそうというものです。

パートナー機関となった香美市は、例えば、ヘルスケアに関するベンチャー企業から、実証フィールドとしての依頼があれば、できる限り協力し、香美市に本社や支店を置いてもらうことで、雇用を生み出すと同時に、より良いサービスを市民に提供できればと考えております。

もちろん、今の時点でオファーがあったわけではありません。またオファーがあった場合でも、実証フィールドとして受け入れするかしないかは、担当課を中心に検討し、場合によってはお断りすることも当然あります。

実はこのヘルスケア分野での産業振興については、私が県議会議員時代に、積極的に県に提案していた事案でもあります。香美市民の健康増進に加え、雇用創出の取り組みとして、高知県と一緒に取り組んでまいります。

次に基本政策3つ目の教育の充実です。

現在、新美良布保育園建設のための設計業務が大詰めを迎えておりますが、その中で新たに仮園舎につきまして、新たな事実が判明しました。当初2階建てで検討しておりましたが、2階建ての場合、耐火または準耐火建築物にしなければならないとのことであり、平屋建てに設計を変更させて頂きたいと考えております。また当初予定していた市有林の木材について、良い木材が足りないという事態が想定されることも判明しましたので、新たに市産材を購入する費用。そして物価高騰などもあり、総額3,080万円余を計上させて頂いております。

次に、交流事業についてです。今月7日から10日の日程で、姉妹都市である積丹町へ訪問団を派遣致します。積丹町との交流は今年で33年目に突入し、世代交代が進んできております。私としましては、この交流を継続していく為には、子供たちの交流が重要であると考えておまして、6月には大柝小学校と積丹町美国小学校で姉妹校協定を結ぶことを予定しております。

そして8月には美国小学校の子供たちを大柝小学校に受け入れ、来年1月には大柝小学校の子供たちを積丹町に派遣したいと考えております。

大柝小学校の新入学生は、残念ながらありませんでしたが、積丹町との交流が、子供たちの大きな学びになることはもちろんのこと、大柝小学校の魅力アップにもつながる事もめざして、積極的に支援していきたいと考えております。

次に、大宮小学校の通学安全対策についてです。現在利用されている西側出入口は、議会からもご指摘頂いた通り、見通しが悪く事故への危険性があります。そこでこの出入口ではなく、運動場の門扉を改修することにより、新たな出入口とすべく予算を計上させて頂きました。

今後とも、児童生徒の安全性向上のため、取り組んでまいります。

最後に、スクールサポートスタッフの増員に対する予算計上についてです。

私は、教育の専門家ではありませんが、先生方が児童生徒に向き合う時間を増やし、余裕を持ってニコニコ児童生徒に接することができれば、児童生徒は自ずと先生や学校が好きになり、学力の向上と不登校対策につながるものと考えております。

今後とも、教員の負担軽減につながる、教育委員会の取り組みを応援し、学校現場を市長部局として積極的に支えてまいります。

次に、基本政策4つ目の市民を守る災害対策についてです。

1月の能登半島地震に加え、4月の宿毛市でも地震が発生し、香美市民の防災意識が高まってきたことから、補助金申請者も増加しております。

私としましては、できるだけ要望に応えるべく、災害時協力井戸整備について追加 12 か所分 360 万円、木造住宅耐震診断委託料について追加 50 件分 172 万円余の補正予算を追加計上させて頂きました。

また住宅耐震改修設計費・住宅耐震改修費・ブロック塀等対策の各補助金の上限額をそれぞれ県内最高額までアップさせる予算を合わせて 2582 万円余の補正予算を計上させて頂いております。

今後とも、香美市民の生命と財産を守るため、市民の要望にはできるだけ応えられるよう取り組んでまいります。

最後に基本政策 5 つ目のインフラの充実と有効活用です。

昨年 12 月に、国道 195 号とあけぼの街道を、南北に結ぶ新町西町線が開通し、香美市民の利便性が大きく向上しました。

一方で、これまで検討している JR 土佐山田駅の南北をつなぐ自由通路の新設につきましては、私としましては、規模縮小等も含め、再度検討が必要ではと考えているところです。

そこで、JR 土佐山田駅周辺における今後のまちづくりの構想や方針策定についての委託業務の期間を延長して実施することといたしました。

予算総額は変わらないものの、委託完了については 1 年延長となります。

JR 土佐山田駅の今後の将来像や、香美市の人口推移も考慮に入れながら、身の丈に合った計画作成にむけて、取り組んでまいります。

続いて、4 つの横断的な政策についてです。

1 つ目は、親しまれ信頼される行政窓口への継続的な改善です。

先月から、若手職員の発案で、香美市職員に配布されたパソコン上で、業務上のお悩み解決できる電子会議室がスタートしております。

私も見ることができるので、内容を見てみると、例えばパソコンの使い方に関する内容があり、不得意な職員が一人で解決しようとするとうと相当時間がかかる課題を質問し、分かる職員が回答して、一瞬で解決したというような好事例が生まれております。

私は若手職員が、積極的に取り組んでいることを嬉しく思いますし、自分の仕事以外で、仲間を助けようという意識が高まっていることを頼もしく感じております。

こういった取り組みが業務改善につながり、結果市民サービスの向上にもつながっていくものと感じています。

今後とも、チャレンジする職員を応援し、香美市役所のレベルアップに努めてまいります。

2つ目は、中山間地域対策の充実・強化です。

私は中山間地域の課題解決のためには、雇用の場をいかに作り出すか、維持していくかが重要だと考えております。そんな中で、農業は中山間地域の人口を支える基幹産業であり、またこの農業を守るための仕組みである集落営農の取り組みを、しっかりと支えることが重要と考えております。

本議会では、永野地域で集落営農の主体となっている農業組合法人ファーム西永野に、472万8千円の補助をすべく予算を計上させて頂きました。

この予算は、コンバイン1台、田植え機一式の購入代金ですが、この新たな設備投資により、香美市の稲作を支え、耕作放棄地対策にも資するものであると期待しております。

今後とも、中山間地域の雇用の場である農業を守るべく、取り組んでまいります。

3つ目は、こども施策の充実と女性活躍の場の拡大です。

4月に「人口戦略会議」が10年ぶりに、消滅可能性都市を発表し、マスコミ報道でも話題となりました。香美市は、消滅可能性都市ではありませんでしたが、人口減少について厳しい状況は変わりません。

この推計の特徴は、20代から30代の女性の数に着目しており、この年代の女性がいなくなれば、子供の数は増えないという理屈となっております。

高知県でも、若い女性を高知県に残すべく色々な策を練っているところですが、先日高知県理事で、人口減少と中山間を担当している中村理事が香美市に来てご説明くださいました。中村理事によると、香美市は、婚姻数が他の市町村に比べて減っているとのご指摘でした。

香美市における婚姻数の推移について、データをご紹介しますと、2013年93組であったものが、2022年では54組と10年で39組減少しており、42%の減少となっています。

また、2021年と2022年について、近隣市、同規模自治体と比べると、香美市は75組から54組と21組減っているのに対し、香南市は104組から115組へと11組の増加。同規模自治体の四万十市、土佐市、いの町もそれぞれ増加でした。

婚姻数は、子供の出生数に影響を与えますので、香美市でも現在分析を進めているところです。

香美市が今後も人口を維持していく為には、若者世代に選ばれる町にならなければなりません。

あらゆる施策を、早急に進め、香美市の将来を明るくすべく、取り組んでまいります。